

モモ・ナシ共通防除の体系化モデル

福島県農業総合センター 果樹研究所病害虫科

1 部門名

果樹－ナシ－病害虫防除

2 担当者

佐野真知子、柳沼久美子、佐々木正剛

3 要旨

果樹生産現場では、リンゴ・モモ共通防除体系による防除が実施されており、ナシの防除についても他樹種との共通化が要望されている。そこで、モモ・ナシ共通防除体系を策定し、ナシ園で検証したところ、共通防除体系は慣行防除体系と比較し、主要病害虫に対して同等の効果が得られ、散布回数も削減できる。

- (1) 過去3か年の試験結果から、主要病害であるナシ黒星病とナシ輪紋病及び主要害虫であるナシヒメシクイとハダニ類において、共通防除体系は慣行防除体系と同等の効果が得られた。
- (2) ナシ園での共通防除体系による年間の散布回数は 16 回であり、そのうち薬剤と散布日を共通化(完全共通化)できたのは 4 回、一部共通化(散布日と一部薬剤を共通化)できたのは3回であった(表1、表2、表3)。
- (3) 共通防除体系は慣行防除体系と比べ、化学合成農薬の成分使用回数を5回削減できる(表1)。

表1 ナシ生産におけるモモ・ナシ共通防除体系と慣行防除体系の比較

	散布回数	化学合成農薬 成分使用回数	薬剤費 (円/10a)
(a) 共通防除体系	16	28	31,078
(b) 慣行防除体系	19	33	37,324
(a)-(b)	-3	-5	-6,246

表2 ナシ生産におけるモモ・ナシ共通防除体系(一部抜粋)

散布日	薬剤名	希釈倍率
5月7日頃 (落花1週間後)	デランフロアブル	1,000倍
	ダントツ水溶剤	4,000倍
5月20日頃	チオノックフロアブル	500倍
	アブロードフロアブル10	1,000倍
	※	
6月5日頃	デランフロアブル	1,000倍
	サムコルフロアブル10	5,000倍
6月10日頃	ウララDF	4,000倍
6月20日頃	ナリアWDG	2,000倍
	ダイアジン水剤34	1,000倍
7月5日頃	ナリアWDG	2,000倍
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍
7月20日頃	※	
	ベルコート水和剤	1,000倍
7月30日頃	オンリーワンフロアブル	2,000倍
	フェニックスフロアブル	4,000倍

表3 ナシ慣行防除体系(現地慣行一部抜粋)

散布日	薬剤名	希釈倍率
5月7日頃 (落花1週間後)	チオノックフロアブル	500倍
	バリアード顆粒水和剤	4,000倍
5月15日頃	チオノックフロアブル	500倍
	ユニックス顆粒水和剤47	2,000倍
5月22日頃	ベルコート水和剤	1,000倍
	コルト顆粒水和剤	3,000倍
5月30日頃	ユニックス顆粒水和剤47	2,000倍
6月10日頃	オキシラン水和剤	500倍
	ウララDF	4,000倍
6月20日頃	ベルコート水和剤	1,000倍
	アブロードフロアブル10	1,000倍
6月30日頃	ナリアWDG	2,000倍
	スプラサイド水和剤	1,500倍
7月10日頃	オーソサイド水和剤	600倍
	オリオン水和剤40	1,000倍
7月20日頃	ベルコート水和剤	1,000倍
7月30日頃	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000倍
	ラービン水和剤75	1,500倍

注1)6月10日頃のウララDF以外はモモとの同時防除が可能となる(表2)。

注2)※の箇所は、モモ園ではモモせん孔細菌病対策として薬剤の追加散布が望まれる(表2)。

注3)コンフェューザーN利用による殺虫剤削減防除層(表2、表3)。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 果樹における樹種共通防除体系の確立(モモ・ナシ共通防除体系の確立)
- (3) 参考となる成果の区分 (発展見込)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成21年度 福島県普及に移しうる成果「リンゴとモモの共通防除体系の策定」
- (2) 平成21年度 北日本病害虫研報. 62. 100-105(2011)